

## 藻場造成

### 漁場環境整備について

関係機関との協議が必要

／海洋農林課長



はまだ じゅんいち 議員  
浜田 純一

町は、人工的に鉄鋼スラグを設置して藻場の造成を進めていくという気持ちはないのか。なぜ度々、鉄鋼スラグの設置を言うのかといえば、鉄の養分が海中に溶け出して藻場の形成に貢献しているという研究結果が出ているからである。

問

9月議会において、沿岸漁業の漁場の改善には藻場の造成が欠かせないと思ひ、川崎市の鉄鋼スラグの事例を説明して質問した。答弁では、ウニ食害を防ぐため2haで40万個位の個体を駆除しただけで藻場が回復するという効果が実証されたとのことであった。食害だけで海藻が無くなるという事は非常に脆弱な藻場であり、昔のような食害を起こしても余りある海藻のある藻場の造成を作っていくかなくてはいけないと思う。

答

谷口 海洋農林課長

藻場の改良計画実施場は上川口の海域2.5ha及び田野浦地先の海域10haを5カ年計画で実施する。

今回の取り組みについては、水産試験場からアドバイスをうけており、ウニを除去する方法と合わせて磯枯れしている海底に、母草をブロック等で固定し、胞子を拡散させるようにして生育させていく、両地区については近辺の健康な藻場の状況調査も併せて行



いながら、海底環境の変化も追跡したいと考えている。鉄鋼スラグの件は費用対効果などいろいろな面があり、水産試験場と協議をしながら考えていきたい。

## 太陽光発電助成金

町単独では難しい

／町長

エネルギー問題

問

自民党政権下では1kw発電に対して、7万円の補助金を受けていたが、政権が代わり民主党の事業仕訳により補助金が見送りになった。

高知県では土佐市と梶原町が独自に補助金を設定しているが、太陽光発電は環境にやさしく、水力、火力、原子力等比べ発電効率も高いし地球の温暖化防止にも貢献している。町も独自で補助金を制定して出すつもりはないか。

答

下村町長

米津住民課長

太陽光発電は環境にやさしく、温暖化防止には大変効果

のある事業だと考えている。確かに地球温暖化の防止には効果のある事業ではあるが、国の方針も現時点では確定せず、不透明な状況であることから本町としては今後の国の動向を見て対処していきたい。そのためには現在の補助金制度の国の復帰がなければ難しい面がある。CO<sub>2</sub>の削減という事は地球規模の課題であり、国民が一致して努力をしなければいけない訳で、確かに大事な事だとは思っている。現状で国の補助がどれだけあるかというような事も関係するが、所得のある方が取り組まれる内容にどうしてもなるのではないかと。町としては、そういった方への支援というよりは、もう少し生活に困った方々への支援を優先的に考えていきたい。